

《2015年11月 月例会報告》

2019年ラグビーワールドカップ成功のために①

ー日本代表の活躍を踏まえて、いま私たちにできることー

嶋崎雅規 (国際武道大学)

【日時】2015年11月27日(金) 19:10~21:10

終了後、同じ会場で懇親会(～23:00ごろ)

【会場】フットボールサロン4-4-2

【テーマ】ワールドカップ2019の成功のために

ー日本代表の活躍を踏まえて、今、私たちにできることは

【演者】嶋崎 雅規 (国際武道大学)

【参加者(会員・メンバー)7名】安藤裕一(筑波大学ハンドボール部OB)、牛木素吉郎(ビバ!サッカー研究会)、浦和俊介(会社員)、金子正彦(会社員)、小池靖(サッカースポーツ少年団)、嶋崎雅規(国際武道大学)、中塚義実(筑波大学附属高校)

【参加者(未会員)7名】安藤江美、遠山諒(国際基督教大学3年)、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)、岡宮喜雄(麻布多摩川R.F.C.)、本間雅裕(麻布多摩川R.F.C.)、山下精一(麻布多摩川R.F.C.)、北澤仁(麻布OB/スクラム釜石)

【フットボールサロン4-4-2スタッフとして参加】今廣佳郎、齊藤宣彰

【報告書作成者】浦和俊介

〈目次〉

1. エディジャパンの戦い
 - (1) 南ア戦レビュー
 - (2) スコットランド戦レビュー
 - (3) サモア戦レビュー
 - (4) アメリカ戦レビュー
 - (5) エディジャパン総括
2. 質疑応答①
3. ワールドカップ総括
 - (1) イングランド敗退ほか強豪国の動向
 - (2) ワールドカップ決勝、オールブラックス最強の証明
 - (3) 日本におけるラグビーワールドカップの余波
4. 2019年に向けての身近な課題
 - (1) トップリーグ開幕戦チケット完売も半分空席
 - (2) スーパーラグビー日本参戦
 - (3) ラグビーの普及育成の問題
5. 質疑応答②

中塚 定刻を過ぎましたので、11月の月例会を始めたいと思います。普段は筑波大附属高校の会議室で行うのですが、飲み食いをしながらやろうというときはこちら（フットボールバー4-4-2）を使っております。

私はサロン 2002 の理事長の中塚と申します。筑波大附属高校の体育の教員で、サッカー部の顧問を同じ学校で長く務めております。サロン 2002 には発足以来かかわっていて、今回が 231 回目の月例会となります。サッカーがらみのネタが多いのですが、時にはラグビーもこのように取り上げられます。

2019 年のラグビーワールドカップにも関心がありまして、理事の嶋崎さんと相談し、今月と来月、ラグビーネタが続くことになっております。

早速中身に入っていきたいと思います。

1. エディジャパンの戦い

嶋崎 今日は、前半はイングランド大会をレビューしていただきます。画像もたくさん用意したので話しながら振り返り、後半は 2019 年ラグビーワールドカップ大丈夫なのか？とここからは私がコーディネーターになって、皆さんから意見をいただくという形で進めていけたらと思います。早速行きます。まずはこの写真です（ワールドカップ南ア戦勝利後の写真）。みんないい笑顔で、

(1) 南ア戦レビュー

まずは南アフリカ戦をダイジェストで振り返りたいと思います。まずは五郎丸ですね（笑）

<南ア戦の映像を上映>

- ・最後のペナルティでスクラムを選択してそこからの展開でトライのシーン
- ・最後にボールを持ったのがヘスケス。外人の強い選手だったからトライできた。小さい選手だったら外へ押し出されていた。
- ・ヘスケスは山田と交代していますね。

この試合を振り返りますと、モールで南アフリカからトライをとる。五郎丸のトライは準備されたプレー（サインプレー）でとる。最後は入れ替えで入ったヘスケスがトライを取ると、采配もあつたのではないかなど。

南ア戦後のエディ・ジョーンズ HC の談話では「ペナルティゴールを選択して引き分ける選択肢もあった」。実際エディは無線で、グラウンドにいるスタッフに 3 点を取りに行くように指示を出していた。ところがリーチマイケル・キャプテン以下選手は全員トライを取りに行った。試合後のエディさんのコメントは、「20 年間コーチをやってきてこれほどハードワークしたことはない。我々の目標はベスト 8 になることと大会で最も優れたチームになること。次の試合に向けてベストな準備をする。次の試合でも観客が味方してくれることを祈る」スタンドからジャパンジャパンと応援してくれたことが力になったことはあるようです。

キャプテン・リーチのコメントでは

「4 年間この日のためにやってきた。91 年以來の勝利は素直にうれしい。南アはペナルティキックを蹴ってきたり焦っているのはわかった。最後のペナルティでキックを選択しなかったのは、相手が 1 人少ないのはわかっていたし、勝ちたい気持ちでそうした。」

嶋崎 29対29の同点の場面で南アはタッチに蹴ってラインアウトからのモールで7点をとりに行かず3点を取りに行った。その時点で南アは気持ちで負けていた。

五郎丸のコメントでは

「精神的にも肉体的にもハードなトレーニングを4年間続けてきた結果だと思う。選手間で南アの選手を一人ひとり分析していたので、その通りプレーできた。仲間を信じて戦えた。後半入ってきた選手がしっかり仕事をしてくれた(マフィヤヘスケスなど)。本当にチーム一丸で戦えた。これからは日本代表を分析してくるので、しっかりリカバーして次に備えたい」

嶋崎 五郎丸選手は4年後の大会を目指しますか?と聞かれて「今は考えられない」と答えています。今までの4年と同じことをもう4年やるのはしんどいのは本音だと思います。

本当に日本は南アフリカをしっかり分析して研究して臨んだ試合。ゲームプランもしっかりしていたし、またそれまでの4年間しっかり準備してきた。

(2) スコットランド戦レビュー

嶋崎 次のスコットランド戦は、中三日だったんですね。ラグビーで中三日は無理。リカバリーできないまま挑むことになります。もちろん選手を入れ替えて戦うのですが、厳しかったかなど。これは言い訳になってしまうのですが。

確かにスコットランドは強かった。強かっただけでなく、この試合ではハイパントを使って日本のFWの背後になだれ込んでいった。スコットランドの方が格上ですから、ふつうはそういうことをしないのですが、それくらい勝ちに来ていた。

スコットランドの監督も、「2か月半、日本の試合を見て研究してきた。後半は、対日本の戦いを徹底した」とコメントしています。

日本は速いテンポでボールを密集から出してテンポアップして攻撃するチームなのですが、この試合の後半では、ブレイクダウン(密集でのボール争奪戦)でスコットランドの選手がしつこくボールに絡んできて、テンポを遅らせてきた。意図的にやってきた。日本の良いところを消して弱いところを突くというスコットランドの戦術は素晴らしいものがありました。

スクラムハーフのレイドロー選手もいい選手でした。冷静にプレーしていたし、プレースキックも正確でした。この大会屈指のプレーヤーだったと思います。

<スコットランド戦の映像を上映>

前半終了間際のトライ寸前の場面で五郎丸がタックルしてトライを阻止するシーン

- ・このタックルは歴史的なプレーですね。完全にトライでした。今大会を象徴するプレーの一つになりました。

(3) サモア戦レビュー

スコットランド戦は負けてしまうのですが、大事なのは次のサモア戦。ズルズルいくと決勝トーナメントはなくなってしまう。サモアは世界最強のフィジカルを持っているのですが、今回は26対5で日本が勝ちました。エディ・ジョーンズ HCはこれまでワールドカップで1勝のチームが一つの大会で2勝した。日本のラグビーの歴史を変えた。象徴的なのは前半24分、スクラムで認定トライをとった。サモアはスクラムも強いと言われていたのですが。

フッカーの堀江のコメントでは

「サモアは想定通りだった。スクラムは想定できていなかったが、1,2本組んでいい感触を得た。シンビン（10分間の一時的退出）で二人退場していたので、ここが勝負どころだと仕掛けて認定トライをとれた」

僕はスクラムを組んだことがないのですが。フロントローの選手に言わせれば、1,2本組めば今日はいけるかダメなのかわかる。堀江のコメントからは、今日はいけるという感触をつかんでいたことがうかがえます。

<サモア戦上映>

(4) アメリカ戦レビュー

最後のアメリカ戦ですが CTB 松島（サントリー）、WTB 藤田（早稲田大学）インパクトプレーヤーとしてマフィ（NTT コミュニケーションズ/バース）といった若手がトライをとるなど目立った試合でした。

3勝1敗でグループステージを終えるのですが、ラグビーはボーナスポイントというものがあり、4トライ以上取ると1ポイント、試合に勝つと4ポイント、負けても7点差以内の負けだと1ポイント。日本は3勝1敗で3チーム並んだのですが、ボーナスポイントの関係で南ア、スコットランドの上に行けず、グループリーグ敗退となりました。五郎丸選手は、試合が終わったあと、泣いていました。「悔しい。目標を達成できなかった」と。

こういう考えはよくないのかもしれませんが、決勝トーナメントに行ってもオーストラリアとやってもボロ負けして帰ってきて盛り上がり水を差すよりは、最後に勝って帰ってきて良かったのかな？とも思います。

<アメリカ戦上映>

- ・アメリカは日本に対してランキング下位ですが、これまで日本はアメリカに全然勝っていません。
- ・LO トンプソン（近鉄）が一番今大会で頑張りましたね。

この試合は勝ち切るということが大事な試合だったと思います。この試合の前に日本は決勝トーナメントに行けないということはわかっていた。モチベーションが低い中でどうやるかが試された試合でした。

(5) エディジャパン総括

① エディ・ジョーンズという人物

この大会の日本代表の総括をしていきたいと思います。エディ・ジョーンズは、コーチとしては日本の東海大学からキャリアをスタートさせています。サントリーでも HC をしています。日本のラグビー、選手のことをよく知っています。奥さんも日本人です。お母さんも日系人で、日本のことをよく知っている。「私が日本ラグビーを救うという意識で仕事をしてきた。日本にはいい選手がいることも知っていたし、日本人は勤勉でハードワークをいとわない」。ジャパンと同じ練習をオーストラリアでやっても選手はついてこない。そういうことをわかってやっていた。「日本にはファンもたくさんいるし、ふさわしい代表チームがあるべきだ。そしてその機会はワールドカップしかない。」

これは大会前のナンバーに書いてあったことです。

② ジャパンウェイ

エディさんがやったことはジャパンウェイ、日本流でやる。その前の代表はカーワンというニュージーランド人の監督がニュージーランド流でやっていた。カーワンは8年監督をやって日本のラグビーはすごく伸びました。特にフィジカルが強くなりました。カーワンはニュージーランド流でやりますから、大きい選手を集めてやる。でも、それではニュージーランドには絶対勝てない。

エディさんはそこでジャパンウェイ、日本のスタイルでやる。まずはハードワーク。世界一の練習をする。具体的には、朝5時から練習。エディさんは朝4時にトレーニング室に行って、トレーニングをして選手を待っていたそうです。1回1時間から1時間半の練習を3回から4回、3部練、4部練という形でやりました。練習は途中で止まりません。ゲーム形式の練習をしていて笛が鳴るとボールまでダッシュ。流している選手がいるとエディさんがマイクで怒鳴ります。走ったらまたもとの練習が再開と、非常にハードな練習を3回から4回行います。5時からのウェイトに始まって、場合によっては夜までやる。

あとはセットプレー。日本は今までスクラムでやられていた。ラグビーでスクラム、ラインアウトといったセットプレーでいいボールが出てくることは非常に大事です。スクラムで負けてしまうと攻撃権を失ってしまう。そのためにダルマゾというフランス人のコーチを連れてきて、徹底的にやりました。具体的には、フラットバックといって、背中を地面と平行にして組む。今までは下から突き上げるという組み方をしていました。スクラムを組む足の位置一つから厳しく指導しました。そこまで細かく指導していた。スクラムの上にエディさんをのっけて歩いたりとかもしたそうです。かなりエグイ練習をしていました。

それからラインアウトも、イングランドからコーチを招聘して強化しました。フィットネス、フィジカルはジョン・プライヤーというコーチを呼びました。総合格闘家の高坂剛さんを定期的に呼んで、格闘技の練習も取り入れました。とにかくエディさんはその道の一番の人を呼んでコーチをしてもらいました。

一番大きかったのはメンタルコーチの荒木さん。五郎丸ポーズもこの方と作り上げた。同じことをすることで心の安定を得られるということをやっていたと言われていています。選手みんなつらいとき、苦しいときに荒木さんが声をかけて乗り越えてきた。こういうスタッフの力も大きかったと思います。

エディさんの哲学。「世界に勝つための攻撃ラグビー」が南ア戦の逆転につながった。南ア戦のロスタイムで、エディさんは無線でペナルティキックで同点を狙えと指示しましたが、キャプテンのリーチは、「南アが疲れていたのはわかったし、選択は自分に任せるといわれていたのでスクラムを選択した」。五郎丸は、「PGの選択肢はなかった」。スタンドオフの小野は、「トライを取りきることでまとまった。だれもポストを指さしてはいなかった」。選手が本気で南アに勝つことを信じて4年間やってきた結果がトライを取りに行くという選択肢でチームがまとまれたということだと思います。

ここまで日本代表を振り返るということでお話してきましたが、何か質問ご意見は？

③ エディ後の日本

参加者 何でエディさんはやめてしまったんですか？

嶋崎 それは協会の方に聞いてください（笑）

この後話をしますが、来年の2月から、日本代表はスーパーラグビー（南半球のプロリーグ）に参戦します。サンウルブスというチームで参戦するのですが、チームのスタッフ、選手が決まらなかった。どういう体制で日本協会はスーパーラグビーに参戦するか見えなかった。

エディさんはそこをやりたいかったのですが、（現状では）選手も選べない。（トップリーグの）プロ選手はいいのですが、社員選手の扱いをどうするか。2月から7月までの間、何か月も会社を空けるということ、企業と協会の間でうまく交渉できなかった。実はまだ監督も決まっていません（その

後、元オールブラックスのマーク・ハメットが HC に就任しました)。もちろん選手も決まっています。そういう協会のスローな対応に業を煮やして出て行ったというのが真相のようです。

参加者 後任はパナソニックのロビー・ディーンズがいいのではないかな？

嶋崎 ロビー・ディーンズは世界のラグビーも知っているし(元ワラビーズ HC)、今はパナソニックで HC をしているので日本のことも理解している。適任だとは思いますが、パナソニックとの契約があるので難しいのかなと思います。その部分については私にはわかりませんが、第一候補であるとは思いますが。清宮という声もありますが、私は外国人コーチで行くと思います。

2. 質疑応答①

(1) ラグビーの勝ち点について

中塚 ワールドカップのことに戻ります。ラグビーワールドカップの勝ち点ですが、サッカーをやっている人にとってはピンとこない(4トライとると勝点1点、7点差以内の敗戦でも勝点1点)。なぜそうなっているのか？いつからなのか？

嶋崎 一つは、トライがたくさん生まれた方がいいという考え。テレビ的にも。PG でこつこつ3点取りに行くのではなく、トライを狙いに行かせるための4トライ以上で勝点1点。7点差以内の敗戦でも勝点1点というのは、ラグビーではある程度差がついたときに、負けているチームが試合を投げやることがままある。片方があきらめるとあっという間に大差がついてつまらなくなる。ということで、負けていても7点差を目指す、もしくは4トライを目指すことで試合が締まるということをやっています。ワールドカップだけでなくトップリーグもそうです。大学は少し違いますが。

中塚 サッカーでも、昔は勝てば勝点2、引き分け1点、負け0点だったけど、より攻撃的な、勝利を志向するサッカーを目指すために勝ち点は3点、引き分け1点、負けは0点が世界的な流れになっていきましたね。90年代くらいかな。

嶋崎 トップリーグはワールドカップでそうだからということで採用していると思うのですが、自分のプレー経験でも、残り10分で20点差(3トライ3ゴールで逆転)なら流しますね。ケガしないように。ふつうは3トライ差ついたら勝てない。そうなったら見ている人がつまらない。そういうことだと思います。

(2) エディ流ハードワークについて

中塚 ジャパンウェイのところでは、ハードワークの様子をTVで見ました。すごいことをやるなあと思いました。朝5時から3部、4部練習をやるというのは昔の根性練習を思い出すのですが、おそらく栄養やトレーニングの専門家が入って体も強くなり、結果も出たのでしょう。マスコミ報道だけをみていると、今回のラグビー代表が採用した長時間のトレーニングは、これまでのスポーツ科学の方向性(短時間で効果をあげる)とは違う気がします。トレーニング、リカバリー、超回復のサイクルを意識して高めていくということはどのスポーツでも同じだと思いますが、あえて違う道を選んだ理由はあるのですか？

嶋崎 理論的なところはわからないのですが、一回のセッションは時間が短い(1時間程度)。今まで

のラグビーは1セッション2時間程度だったので、トータルの時間はあまり変わっていない。短時間・高密度で何回も実施する。おそらく人間の集中力が持続する限界がこのくらいではないか。ハードワークが強調されているが、根性練習がいいということではないと思います。決して非科学的なことではなく、科学的に練られていると思います。朝はウェイト、午前はスキル、午後はコンタクト練習、夜はプロテクターをつけて格闘技や身のこなしの練習といった感じで、リカバリーもしっかりとります。毎日やっているわけではなくて、ワールドカップでも海に行ったりしています。そのとき山田選手はクラゲに刺されて次の試合出られなかった(笑)。私も実際同行したわけではないので、TVだったり関係者から教えてもらったりといったところです。実際にかかわった方に、今後コンタクトを取ってみたいとは思っています。

(3) その他

参加者 メンタルコーチは世界的に一般的なものなのですか？

嶋崎 牛木さんどうなんですか？

牛木 メンタルコーチは陸上でも他の競技でも一般的です。トップチームではみなつけています。私の事務所にも東海大学のメンタルコーチのチームが来ています。

中塚 高妻先生のグループですね。

北澤 ジャパンウェイというのをワールドカップ前にTVで見て、非常に画期的だなと。五郎丸もキックだけでここまで来たと言われた。ワールドカップ前にNHKが密着でやっていたというのがすごいなと。ジャパンウェイは、私に言わせればね、レベルは違うけど釜石の7連覇のとき、まさにこういうことをやっていた。なんで松尾が釜石に入ったかという、松尾が試合に来た時に、「おい、あんな強いFWだったらおまえ何でもできるぞ」と。そういう話に象徴されるように、スクラム、ラインアウトといったセットプレーを全部支配しよう。森、松尾が来る前は小藪がいたんだけど、彼が厳しく基本をやらせた。僕が釜石に行く前に。そのとき厳しくやったから、小藪の名前はあまりOB会でも出てこない(笑)。昨シーズン、ヤマハが日本選手権で優勝した時に清宮は、FWとセットプレーを徹底的にやると新聞の談話で話していたから、電話で「釜石でやってたことと同じじゃないか」といったら「その通りです」と言っていた。釜石は「勝つラグビー」をやっていた。松尾が釜石に来た時に小藪が、「お前がキックだけやってればいい」と。それで松尾ががっかりしたらしいんだけど。僕が部長の時も、松尾もいなくなって、現場にいるOBが来て、今日はFW周辺でやるからウィングには回さない。とにかくタックル、タックルでやると。今度の試合も相手に走らせない。勝つラグビーだなと。ジャパンウェイは釜石ウェイなんだと。

嶋崎 日本人が勝つということはそういうことかなと思います。

参加者 外国人を入れないと、こういう練習をしても日本は勝てませんか？

嶋崎 その話はあとにしようと思っていましたが、僕らはあまりそのような感覚がないですね。

参加者 そうではなくて体の大きさとか。

嶋崎 やはりマフィとかヘスケスが持っている強さは違いますね。みんな日本の大学なりトップリーグのチームでプレーしているラグビー仲間なのであまりそういう意識はないし批判も多いですが、五郎丸がツイッターでガンと言ってくれて収まりましたね。やはりフィジカルは真似ができない強さがありますね。

3. ワールドカップ総括

日本以外のチームについてもざっと話していきたいと思います。

(1) イングランド敗退ほか強豪国の動向

まずはイングランド。予選敗退しました。開催国が予選敗退したのは初めてです。ただグループが、オーストラリア、ウェールズ、フィジー、ウルグアイと、ウルグアイ以外の4か国で二つのイスを争った。このプールは厳しかった。ウェールズに逆転されて負けてしまったのが痛かった。PG1本差で負けてしまった。開催国でラグビーの母国なのにメンツが立たないということで、エディ・ジョーンズがほしいとなった。

下馬評の高かったアイルランド。北半球6か国対抗で連覇中でした。大会期間中のけが人が多かった。主将のオコネルがハムストリング断裂で離脱、SOやFLにもけが人が出て、準々決勝でアルゼンチンに敗退してしまった。

ベスト4はニュージーランド、オーストラリア、南ア、アルゼンチンとすべて南半球の国になった。

スコットランドは北半球の国で一番頑張りました。日本も負けましたが、強かった。準々決勝のオーストラリア戦も勝ち試合でしたが、試合終了間際にPGを与えてしまい敗退となりました。スコットランドはスクラムで圧倒しSHのレイドローがPGを決めていく。後半もオーストラリアのパントをチャージしてそのままトライにつなげた。残り7分でインターセプトから逆転トライをとる。残り1分でノックオンオフサイドのペナルティを犯し、逆転PGを決められてしまう。逆転PGにつながるプレーも、後で見返すとペナルティではなく、ノックオンでオーストラリアボールで再開するべきだった。確かに難しい判定だったがスコットランドの選手も文句を言わずに受け入れた。

(2) ワールドカップ決勝、オールブラックス最強の証明

決勝はニュージーランドとオーストラリアの顔合わせでした。ワールドカップ決勝での初対決。36-17でニュージーランドが勝ちました。鉄壁のディフェンスでした。抜かれる気がしなかった。ニュージーランドは、予選プールではあれって感じでしたが、トーナメントに入って一戦一戦良くなってきた。決勝では、本気になったニュージーランドはこんなに強いのかと思いました。圧倒的でした。

オーストラリアも、ニュージーランドがシンビンで一人少ないときにトライを二つとって粘ったのですが、SOのカーターがドロップゴール（インプレー中にキックを狙うプレー。決まれば3点）で流れをもって行って勝った。

試合を見ていただきたいを思います。

<ニュージーランド対オーストラリア上映>

- ・決勝だけスペシャルなハカを踊りました。
- ・足を抱えてのタックルはイエローカードの対象です。10分間の一時退出中にオーストラリアは2本トライを取りました。
- ・ダン・カーターのドロップゴール。これはすごいです。あそこから狙うとは。

・キャプテンのリッチー・マコウとダン・カーター。この二人が優勝の立役者でした。ダン・カーターはニュージーランドではテレビにたくさん出ていて、国民的ヒーローなんだそうです。

(3) 日本におけるラグビーワールドカップの余波

① 日本代表戦視聴率ほか

様々な情報ですが、日本代表戦の視聴率・日本テレビ（地上波）の数字です。j スポーツや衛星放送で見た人はもっています。9/13 南ア戦 4.9%。これは次の日のお昼に録画で放映したものです。見たい人は生で見た。スコットランド戦 14.6%、サモア戦 19.3%、ラグビーの試合でこんな視聴率を取ったことは昨今ありません。ラグビーの試合をこんなにたくさんの人が見たということはありませんでした。アメリカ戦は早朝 4 時ころからの試合でしたが 3.3%。ビデオリサーチ社では 5 時で一回切っているの数字が二つ出るのでありますが、5%くらいの数字は出ています。

地上波でやるのは大きいなと実感しました。我々（ラグビーが好きな人）はスカパーにお金を払ってみっていますが、普通の人は見ませんから。

日本代表が帰国した際、ファン 500 人、報道陣 70 社、150 人が出迎えた。行くときはファンが 100 人程度いただけだそうです。日本のマスコミにありがちなことです。

② 五郎丸フィーバー

五郎丸選手のテレビ出演、帰国当日に NHK9 時のニュース、17 日に NHK の特番、たけしの情報 7 デイズ、報道ステーションでは五郎丸は釣りが好きだということで、スタジオに釣り堀のセットを作って古館と対談していました。フジテレビのスポルト、テレビ東京のワールドビジネスサテライト、五郎丸は福岡出身ということでソフトバンク対ヤクルトの日本シリーズの始球式（五郎丸ポーズはなし）、スマップスマップなど。そのほか堀江、リーチ、山田、日和佐といった選手もあちこち出ています。彼らはプロ選手なので比較的テレビ出演しやすいのです。五郎丸はヤマハ発動機の社員ですが、例えば立川はクボタの社員なので社業に復帰してあまりテレビには出られなかった。プロとアマチュアでだいぶちがうのかなと。五郎丸ポーズは小学生はみんなやると。

③ 今回のワールドカップ報道から見えてくるスポーツ報道の問題点

こういう報道を見るにつけ私は思うのですが、エディ・ジョーンズという世界的名将が非常に注目されています。五郎丸選手。名前が特徴的ですよね。そしてあのポーズ。リーチ・マイケルをはじめとする帰化選手、外国籍選手への批判。「ずるいんじゃないか」という。ラグビーはパスポート主義ではなく所属協会主義なので、3 年以上日本でプレーすれば代表になれます。ただし日本の代表になったら母国の代表にはなれません。いまはそういうルールになっています。五郎丸のツイッターでは「彼らは母国ではなく日本を選んで日本のために戦っている。外人ではないんだ」

私もこの意見に賛成で、これからの日本の社会は開かれた共同体になるべきだと思っています。人種とか民族で分けるのではなく、開かれた社会になっていかなければならないのではと思っています。そういう意味ではラグビーは先進的ではないかと思っています。国に、国籍にこだわらない。

しかし報道はそういうことに偏っていて、ラグビーそのものはあまり報道されていません。今大会、イングランドが予選プールで敗退しました。大変なニュースなのですが、あまり報道されない。ニュージーランドやオーストラリアがいい試合をしていてもあまり報道されない。決勝戦、エリスカップの行方もあまり報道されない。このラグビー報道、ラグビーそのものを報道してくれないのかなと。

サッカーでも 2011 年になでしこジャパンは女子ワールドカップで優勝しました。澤や川澄は報道されたけどリーグそのものはその年はよかったけど翌年からは報道されない。ラグビーもそうなりかねない。ラグビー面白いでしょ、すごいでしょという報道がなされないと発展していかない。

4. 2019年に向けての身近な課題

(1) トップリーグ開幕戦チケット完売も半分空席

トップリーグ開幕戦。情けないですね。10972人。秩父宮で切符が売り切れたのに、蓋を開けたらいつもと一緒にいた。完売だと協会が言っていた。選手も満員になると思っていた。田中も言っていました、「グラウンドに出て行ったらいつもと一緒にやん」。がらがらだった。

これはからくりがありまして。ラグビーのチケットはそんなに売れるものではないので、トップリーグチームを所有している企業に買ってもらっているんですね。この試合はパナソニックとサントリーの試合でしたが、両社で9,000枚買っていた。社員に配るんですね。私も教え子にトップリーグの選手がいますが、電話で「チケット頼む」と言ったら部員全員分用意してくれます。それくらい企業はチケットを買っていますが全部使っているわけではない。協会は9,000人来ると思っていたんですね。年間券や招待券を6,000枚配っているんですが、それも全員来るわけじゃないですが。しかし5,000枚しか一般販売にかけなかった。だから15,000枚チケットはあるけど、来るのはまあ半分くらいですよ。一般売りの5,000枚の方は、来たけどあとは半分くらいしか来なかった。結果から言えば、様子も見ながら当日売りをすればよかった。ある程度スタジアムが埋まれば当日売りをやめればよかった。早々とチケット完売で前売りも行わないとしてしまった。この試合で失敗したので、次の試合からは当日券の販売をしましたが、もう切符がないということが浸透してしまったので、ヤマハのホームゲームは3,000枚当日売りを用意したけど100枚しかさばけなかった。日本協会はしっかりマネージメントしていただかないと。ワールドカップも来るのに。

参加者 これについて田中も言っていましたね。

嶋崎 もともとお客さんが入らない時も企業がチケットを買ってくれたからラグビーはもっていた。だから、こうなったから企業に買っていただかなくていいとはいかない。もう少しいい方法はないのかな。協会の責任者は謝罪していましたが。

今週末、リオ五輪予選もかなり気合を入れて動員がかかっていますが、女子ラグビーでどれくらい人が集まるのか。男子は出場を決めています、女子はぎりぎりです。香港ではカザフスタンに勝っていますが、次に勝てる保証もないですし、中国にも負けています。中国はセブンスが五輪種目になってから強化を初めて脅威的に強くなっています。(日本代表は、無事男女ともに出場を決めました。)

男子はTBSが7時から生で中継してくれましたが、女子は夕方なのでどうでしょうか？

(2) スーパーラグビー日本参戦

サンウルブスですね。2016年からスーパーラグビーに参戦します。太陽のサンと狼のウルフからとっています。

試合の予定は決まっています、3/16にレベルス、4月にアルゼンチン、5月にフォース、7月にワラタスが日本に来ます。ワラタスが見られるなんて感動ですね。五郎丸がいるレッズとも試合をします。

サンウルブスのホームゲームで、シンガポールで行う試合があります。シンガポールでやるのはアジア地区でのラグビーの普及の一環という位置づけによります。今回は香港ではないですが、香港やシンガポールはスタジアムもあるので。

2019年に向けて日本ラグビーはどう進むべきか？

代表チームの強化。開催国のベストエイトは必須条件です。そのためにサンウルブスはどうすべきか。マイケルリーチや松島、田中はサンウルブス以外でのプレーは決まっています。山田はサンウル

ブスでやりたいといっているそうです。ジャパンもサンウルブスとそれ以外と別れる見通しですし、ヘッドコーチをどうするか？

ラグビーファンをどう増やすか？スーパーラグビーやトップリーグの観客を増やさないと2019年の観客が増えません。これまでの大会は満員になっていましたが、日本どうなのと言われてしまいます。

(3) ラグビーの普及育成の問題

ジュニア層、子供たちへの普及をどうするか。ラグビースクールやタグラグビーといった小学生年代は人口が増えています。中学生年代でチームがない。ほかのスポーツに移っていった子たちは戻ってこない。中学校に部活を増やすのは難しいので、ラグビースクールの延長でどう受け皿を作っていくのか。みなとラグビースクールとか頑張っていますね。ジュニアのクラブ、高校生年代のクラブはほとんどありません。

大学ラグビー。大学ラグビーのレベルは極めて低いです。帝京大学だけです、トップリーグと比べてもまともなラグビーをやっているのは、トップリーグとまともに試合ができるのは帝京大学だけでしょう。大学のトップチームは100名以上の部員を抱えて、試合に出られるのは15人だけ、メンバー入りで23人。ジュニア選手権という二軍の試合もやっていますが、せいぜい30人程度しか出られない。高校生年代までの強化が大学で止まってしまう。でも高卒でトップリーグのチームには行かない。みんな大学に行く。トップリーグのチームが一部上場の一流企業なので大卒を欲しがっているという面もあるのでしょうか。大学ラグビーを何とかしないと日本のラグビーは強くならない。エディ・ジョーンズもかなり強く言っていました。これがキーとなるのでしょうか。

5. 質疑応答②

ここからはフロアからご意見をいただきながら進めたいと思います。

(1) サンウルブス HC 問題他について

中塚 質問から行きましょう。トップリーグが始まりましたが一月中旬までやりますね。2月末にはスーパーラグビーが始まり、トップリーグのオフにサンウルブスを結成しますよね。いつごろまでに監督や選手を決めないといけないのでしょうか？

嶋崎 ヘッドコーチは近日中に決まるでしょう。選手は日本代表を想定している。「代表＝サンウルブス」の予定です。6月のスコットランド戦はサンウルブスに海外チームの代表を加えたメンバー構成の予定です。

参加者 「サンウルブス＝代表」ということでしたが、トップリーグにいる外国人はサンウルブスに入れないのですか？

嶋崎 彼らは所属チームがあるので、そこに帰ってプレーすると思います。オフシーズンの出稼ぎで来ているので。スーパーラグビーとトップリーグはオフが裏表なので両方でプレーできます。

参加者 ジャパンに入る近道はサンウルブス入りですね。同志社の WTB 松井とか。

嶋崎 学生も入っていくと思います。プロ選手だけでなく社員選手も入らないとチームが成立しませ

ん。各企業にも社員でも出してもらわないと。その辺が日本協会と各企業との交渉になるのですが・・・うまくいっていないようですね。

浦和 トップリーグは将来的にはシーズンを短くすることを考えているのでしょうか。両方やることを続けていたら選手寿命も縮まってしまう。

嶋崎 今年はワールドカップの関係で、始まりが遅いし終了も早まっている。私も聞いてはいないですが、これくらいで行きたいのでは？ ただそうすると収益の面で問題が出てきますね。

浦和 サンウルブスができたことによって、トップリーグの各チームの親会社が、日本代表強化のために各国代表クラスの外人を抱えてトップリーグを高いレベルに保つ必要性を認めなくなるのでは？ プロ選手はサンウルブスがあるのだからそちらでやっていただいて、トップリーグの選手は昔の社会人ラグビーのように、ちゃんと会社にも出社していただくというように分化していくのではないかと？

嶋崎 横河電機みたいにですよね。確かにあり得ない話ではないと思います。本当は日本でプロリーグができればよいのですが、現実的ではないですね。

(2) ラグビー日本協会の対応について

参加者 ラグビーは今までマイナーでファンも少なかったけど、日本協会がもう少しうまくやってファンを増やしていくべきだ。もっとラグビーを一般の人が見るようにしないとファンが増えない。

嶋崎 ここからが日本協会の腕の見せどころですね。選手も頑張ってきたし、協会も強化にだいぶ投資した。ここからの4年間、どうしていくのかを、次回の月例会で日本協会理事の山本先生にお聞きしたいと考えています。協会のスタンスをはっきりしていただかないと、我々下々のクラブ、選手、ファンは動けないですね。

(3) ラグビー人気の空気感

嶋崎 このラグビー人気、ファンを一過性のものにしてはいけないと思いますが、そのあたりについては？

浦和 先日、大学ラグビーを秩父宮で観戦しましたが、自分も含めて昔見ていた人がまた来ているという感を受けました。

嶋崎 私の周りでも、初めてラグビーを見に行くという方はたくさんいらっしゃいます。でもこれが一回で「あ、すごいね。」ではなくて継続にしないといけない。

(4) ラグビーにサポーター文化を育てるには？

参加者 サッカーのサポーターってすごいですよね。人数もすごいし。ラグビーでもあんな風にはできないですかね？

嶋崎 サントリーとかは子どもたちを招待したり、かなり頑張っていますね。でもサポーター文化はラグビーにはないですね。

参加者 ラグビーでもあんな風な応援団を作れないですかね。

牛木 サッカーではそれぞれのクラブがサポーターを持っている。だから所属選手が代表になったりすれば国際試合の観客動員も増えていきます。しかし、いつも試合会場が満員というクラブは限られています。新潟とか鹿島とか浦和とか。満員になっていないクラブもたくさんあります。

参加者 そうなのですか！？

牛木 必ずしも毎試合勝つ必要はない。あんまり負けすぎるのはまずいけど。チームにくっついてくる人を増やさないといけない。

参加者 サポーターってのは、どうやってサポーターにするのですか？

牛木 各クラブの努力、工夫ですね。協会がどうのではなくて。私は新潟出身なのですが、新潟はサッカーもラグビーもたいしたことはなかった。でもいまでは5万人のスタジアムが満員になる。どのようなことをしたかという、まず小学校にはがきを配って入場券が当たりますと。入場券をあげるのではだめです。タダでは。当たったから行こうと。それで来て面白ければまた行く。鹿島は競技場が市街地から遠いのですが、市長が頑張ってくれた。

各クラブでそれぞれやっている。協会にやってもらおうではだめで、各クラブでやらないと。ラグビーの問題は、大学に、企業に、協会に頼もうという姿勢にある。大学と企業はほぼ同世代の選手を抱えて分かれてやっている。大学ラグビーの良さはあるんだけど、代表を強化するという観点では分かれてやるのは無理じゃないかな？

(5) ラグビー競技の普及の危機について

牛木 ジュニア層の普及では私も調べたけど、高校ラグビーのチーム数は激減している。かつて私が調べたときは、サッカー、ラグビーともに1,800チームくらいあってラグビーの方が多いくらいだった。今はサッカーは4,000を超えてラグビーは1000を割っている。かつてサッカーもラグビーも毎日放送がやっていたけど、サッカーは日本テレビが取っちゃってラグビーはやっていない。もうすこし高校生以下の体制をどうにかしないと。

参加者 東京オリンピックでサッカーをやって、それまで私の学校にもラグビー部しかなかったんだけどサッカー部ができた。それからずっとサッカーは伸びているけど、ラグビーは後塵を拝している。孫も最初はラグビーの練習に連れて行ったりしたけど、サッカーをやっている。やっている人が多いからそっちに流れてしまう。タグラグビーとか普及させたり、ラグビーに接する機会を増やしていかないと。

嶋崎 高校ラグビーは本当に危機的な状況で、東京は最盛期で140校高体連に加盟していましたが、今は加盟校で約90校、単独で(15人以上揃えて)試合に出られる高校は60校くらいです。あとの30校くらいは合同チームで出てきています。

地方はもっと悲惨で、島根県は予選出場校2校です。一校は石見智翠館高校。ここは強豪ですが、もう一校は合同チームです。

小学生は増えています。タグも普及しています。私も先日勝浦の小学校に指導に伺いましたが、タグは鬼ごっこ感覚で楽しんでやってくれます。

中学、高校をどうにかしていきたい。

毎日放送の花園中継ですが住友グループ一社独占でやっていたんですね。視聴率が下がってきて、住友が降りたくなる。アンケートなど我々も書いてかなり協力しましたが、最終的には視聴率ですね。住友グループが降りた後、スポンサーを見つけられなくてできなくなった。毎日放送はやりたかったようですが。（現在毎日放送は神戸製鋼をスポンサーに付けて決勝戦は生放送しています。）

一方、日本協会が J スポーツにラグビーの放映権をかなり高額で販売しています。そのあおりで、TVK のラグビー中継は、かつては土日で2試合ずつやっていたんですが、放映権料が高くなりすぎてローカル局では放映できなくなってしまいました。ラグビーをテレビでも見たことがない人が非常に多かったですね。このワールドカップまで。

参加者 昔は5か国対抗とかNHKで放映していましたね。

(6) 普及のためにスポーツの相互乗り入れは？

浦和 私の子供はサッカーをやっているんですが、週三日くらい練習している。そのうち一日はタッチフットとか違うスポーツをやった方が、サッカーもうまくなるのではないかと個人的には思っています。たとえば少年サッカーのクラブにラグビーのサントリーカップの案内を出して、違う種目の子どもたちにもラグビーを知ってもらえるようなやり方はどうでしょうか？

嶋崎 それはいいアイデアですね。

浦和 子供にはミニバスとかもやってほしいのですが、サッカーが忙しすぎてほかのスポーツができない現状がある。

参加者 スポーツの相互乗り入れですね。

嶋崎 岩手では季節部といって、夏で野球とかが終わった後、ラグビーチームを作って大会に出たりしている。山梨もそうですね。ラグビーはそのように相乗りでやっていると競技人口が増えない。日本の部活動自体が、少子化の中、多様なスポーツを維持していくには季節部になればよいのですが。

(7) その他

参加者 ラグビー協会の基本的な考え方が本腰が入っていないのでは？釜石はサポーターとかもいるし、クラブも会社（新日鉄住金）が半分くらいは出しているけどね。釜石の物語もみんな知っているし、昨年福岡まで行っても（トップリーグ入れ替えリーグで）釜石のファンの方が多い。こんなことを参考に、地道にやっっていかないと。

参加者 母親が、ラグビーは危険だという先入観がある。その辺を変えていかないと。

嶋崎 そこは女子ラグビーに頑張ってください。あとは学校の授業で、女子でもラグビーの授業をラグビー部顧問の体育教員や中塚先生がやっていますね。女性にアピールしていかないと子どもにやらせてくれないので。

協会問題については次回、山本先生にお答えいただきましょう。クラブについては、今までは企業の福利厚生の一環で従業員を連れていけばいいという考えでしたが、サッカーは親会社とは別組織ですね。ラグビーは会社の中にあります。でも、これはトップリーグがこれから変わっていかなくては

いけない部分です。

参加者 ラグビーにはサッカーの川淵さんみたいにまとめる人がいないよね。

参加者 昔は、客なんて入らなくていいんだ、対抗戦文化なんだからという協会の意識があったけど、変わっていかないといけない。

参加者 2020年の五輪は19年のラグビーワールドカップに悪い影響を与えないですか？

嶋崎 7人制もあるのでうまくリンクしていけばいいと思います。この後もこの場でいろいろな情報をいただいて次回の月例会につないでいきたいと考えています。

本日はどうもありがとうございました。